

3年振りの全国赤十字大会

日本赤十字社 参与 三井 俊介

今号の「水夢」を練馬区水泳連盟(以下、練水連)関係者の皆さんが目にする頃は夏真っ盛りでしょう。プールでの水泳はもちろん、海や川等での水辺活動を行っている方もいらっしゃるかも知れませんね。

さて、練水連の機関紙「水夢」は今号で発行以来50号という節目を迎えました。年2回の発行であることを考えると、人の年齢に例えると25歳と言うこともできます。文字通り「継続は力なり」です。一つの号を読者の皆さんのもとに届けるには大きなエネルギーを要することでしょう。広報担当の方を始め関係各位に敬意を表します。

私共はこの2年余りの長きに亘り、新型コロナウイルス感染症の脅威に曝されてきました。更に、今年に入ってからロシアによるウクライナ侵攻、知床の観光船沈没事故と国内外での暗い出来事も起きています。私共はどうやって「こころ」のバランスを取ればよいのでしょうか。

去る5月19日(木)、3年振りの「全国赤十字大会」が渋谷区にある明治神宮会館で開催され、私も参会をする機会を得ましたのでその様子と印象を記してみたいと思います。この大会の意義は、日本赤十字社(以下、日赤)の名誉総裁である皇后陛下をはじめ名誉副総裁の各宮妃殿下のご臨席のもと、全国のボランティア、支援者等の方々を表彰することであり、日赤にとっては年一回の大きな行事となります。ただ、一昨年、昨年とコロナ禍により中止となっていたものです。今回の大会では、当然のことながら感染防止のための措置として参会者数制限、入場時の検温、手指消毒、マスク着用、その他に持ち物検査という具合でした。ご臨席の皇族方は、雅子皇后、秋篠宮妃紀子殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下の四方でした。プログラムのコアは受章者代表の13名の方々への名誉総裁(皇后)からの有功章ご授与です。代表の皆さんの緊張と誇らしさが印象に残りました。その後、武蔵野赤十字病院の泉院長から「未知のウイルス 新型コロナ

ウイルスの赤十字病院の対応」と題した実践報告が行われました。その中では、マスク・防護衣の着脱訓練、ゾーニング、患者の食事後の下膳時は要最警戒、看護師自身の熱中症予防としてアイスノンを背中に背負いその上から防護衣を着る、入



院患者のご家族に防護衣とフェイスシールドを着用してもらい臨終直前に面会していただいた等が私の印象に残りました。その発表中、名誉総裁が首を右横にひねりながら発表者の様子を見ている姿が、前名誉総裁の現上皇后美智子さまに重なったのは私だけでしょうか？

時間を遡りますが、式典開始前に「赤十字この一年」という令和3年度の事業の様子が20分間程大きなスクリーンに流されました。全国の赤十字病院での新型コロナウイルス感染症患者対応、愛知県の日赤病院が設置している性暴力救済センターの活動、バングラディッシュでの避難民支援(診療所、ボランティア育成、レジリエンス強化)、東北地方の日赤支部・病院と海上保安部との協働訓練などが紹介されました。最後の日赤と海保との協働訓練を見ながら知床観光船沈没事故のことを想起しましたが、救護活動と捜索・発見・救助との差は大きいものでした。

なお、今回の参会者に配られた封筒の中に濃紺のエコバッグが記念品として入っており、「救いを託されている」という文字と糸杉の絵が描かれていました。添付の説明文には、回収されたペットボトルなどから再生された生地を使用した環境に配慮したオリジナルエコバッグであり、糸杉は赤十字のシンボルツリーである旨が記されていました。

最後になりますが、この7月1日付で新しい日本赤十字社社長に元 慶應義塾長の清家篤氏が就任したことを記しておきます。